

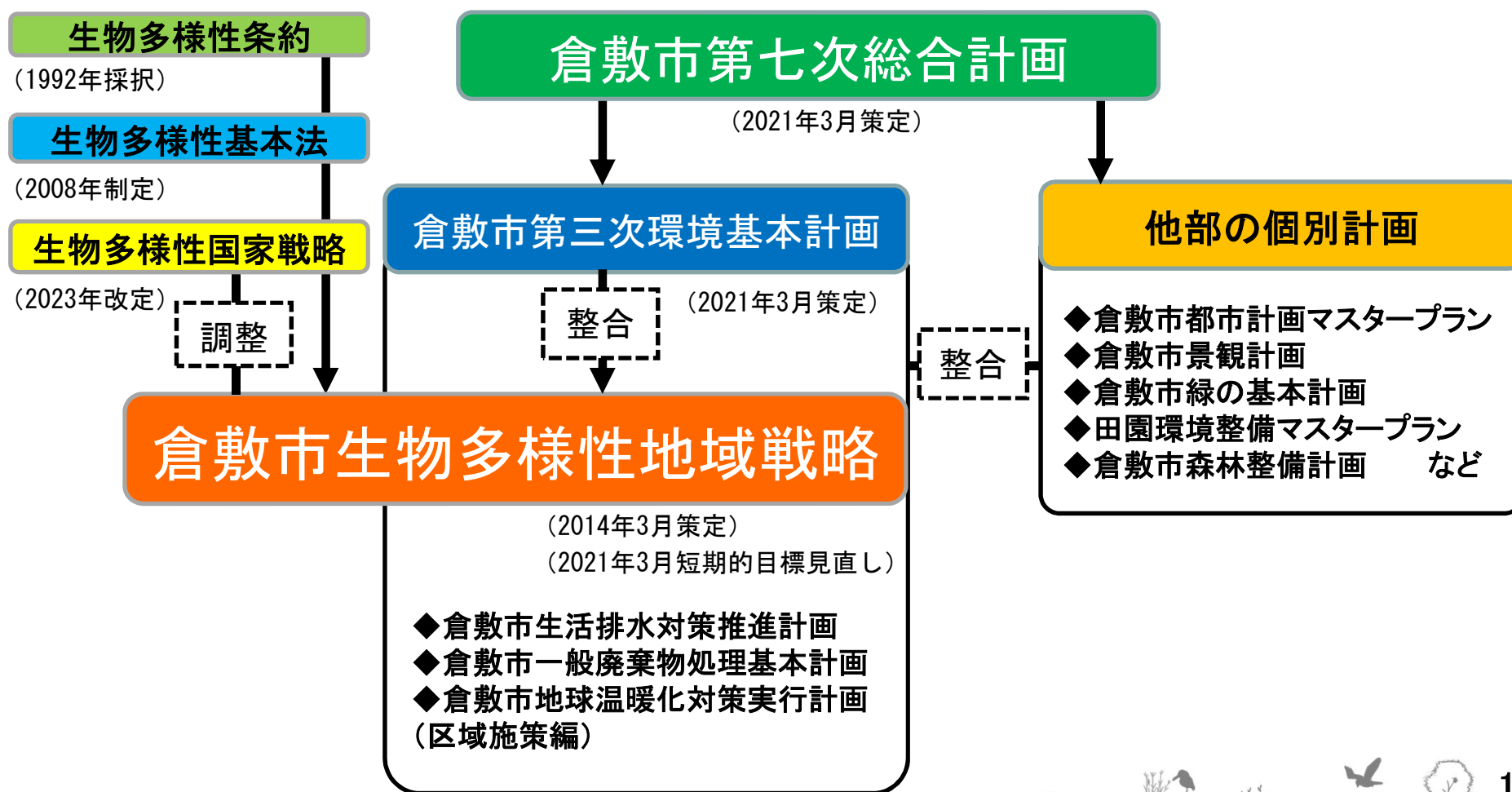
「倉敷市生物多様性地域戦略」の進捗状況等について

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

倉敷市生物多様性地域戦略の位置づけ

倉敷市第三次環境基本計画のうち、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する項目を担う



倉敷市生物多様性地域戦略策定の経緯

生物多様性基本法 （平成20年（2008年）6月施行）

<第13条第1項>

都道府県及び市町村は、（中略）生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画（生物多様性地域戦略）を定めるよう努めなければならない

生物多様性国家戦略2010 （平成22年（2010年）3月閣議決定）

■基本戦略・・・「生物多様性を社会に浸透させる」

・都道府県をはじめ地方公共団体が、それぞれの地域の特性に応じて生物多様性戦略をつくることが不可欠

倉敷市第二次環境基本計画 （平成23年（2011年）3月策定）

■基本目標1 環境と地域の社会・経済との調和が保たれ、豊かな自然と魅力的な景観を有しているまち

【主要な施策】（前略）～生物多様性基本法に基づく生物多様性戦略を策定し、市内の生物多様性の保全に努めます。

倉敷市生物多様性地域戦略の目標期間

■ 平成26(2014)年3月 倉敷市生物多様性地域戦略策定

■ 戦略の短期的目標年次: 令和2(2020)年度

- ・上位計画である「倉敷市第二次環境基本計画」との整合性を考慮
- ・生物多様性の普及啓発の推進と、生物多様性の持続的利用に向けた基盤づくりを行う期間

■ 戦略の短期的目標年次: 令和12(2030)年度

- ・上位計画である「倉敷市第三次環境基本計画」との整合性を考慮
- ・生物多様性の普及啓発の推進を継続し、生物多様性の持続的利用に向けた基盤の強化を進める

戦略の長期的目標年次: 令和32(2050)年度

- ・岡山県の生物多様性地域戦略「自然との共生おかやま戦略」との整合性を考慮
- ・自然再生や社会基盤の再構築の取り組みもすすめる期間



倉敷市生物多様性地域戦略に係る行動計画

恵み豊かな瀬戸内の自然を
未来に向けてみんなの手で引き継いでいるまち倉敷

基本目標

1. 倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。
2. 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。
3. 生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。
4. 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

取り組み

1. 生物多様性調査の実施
2. 生物多様性に係る情報の整備・充実
1. 総合的・計画的な保全体系の拡充
2. 地域の自然と生態系ネットワークの保全
3. 地域ごとの自然環境の保全
4. 重要地区の保全
5. 希少野生生物の生息・生育環境の保全
6. 外来生物対策
1. 環境配慮型農業と地産地消の推進
2. 生物多様性に配慮した地域開発と産業、事業活動の促進
1. 市民への環境学習機会の提供
2. 支援者、指導者の育成
3. 子どもたちへの環境教育の充実
4. 社会貢献活動や自然共生圏を意識した地域交流経済活動の支援
5. エコツーリズム等の推進
6. 自然とのふれあいの促進

報告内容の構成

- 基本目標達成に向けて、「数値目標達成状況」と「事業実施計画表」の2部で構成。

- ・数値目標達成状況について

- 基準年度(基準値)、達成年度(目標値)及び令和4年度実績値を記載、あわせて目標達成に向けた状況を「○」、「△」、「×」で表記

- ・事業実施計画表について

- 事業項目を「リーディングプロジェクト」と「その他の取り組み」で表示

- ・リーディングプロジェクト

※生物多様性地域戦略の基本目標の実現に向けて戦略全体をリーディングする誘導的なプロジェクト事業

- ・その他の取り組み



数値目標達成状況①

基本目標1 倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

番号	項目	基準値	基準年度	R4年度実績値	状況	目標値	達成年度
1-1	自然環境基礎調査の実施件数 (関連部署:市環境政策課)	0件/年	2019 (R元)	0件/年	×	1件/年	2030 (R12)
1-2	市民参加型生き物調査の実施(報告件数) (関連部署:市環境政策課)	-	2019 (R元)	81件/年	×	500件/年	2030 (R12)
1-3	市民団体等による自然環境調査、観察会等の実施件数 (関連部署:市環境学習センター、自然史博物館他)	63件/年	2019 (R元)	34件/年	×	現状維持	2030 (R12)
1-4	1-4 自然史博物館 標本登録件数(積み上げ) (関連部署:市自然史博物館)	498,886点	2019 (R元)	542,762点	△	560,000点	2023 (R5)

基本目標2 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

2-1	都市公園の総面積 (関係部署:市公園緑地課)	393.6ha	2019 (R元)	394.3%	△	476.3ha	2035 (R17)
2-2	温室効果ガス排出量の抑制(市内全域) (関連部署:市地球温暖化対策室)	3,176万トン	2016 (H28)	2,664万トン (R2)	○	3,053万トン	2030 (R12)
2-3	市内で下水道を利用できる人の割合 (関連部署:市下水経営計画課)	80.6%	2019 (R元)	82.0%	△	82%	2025 (R7)
2-4	自然環境に配慮した工法(自然環境保全マニュアル)などにより整備された、河川やため池、護岸等の工事件数(保護移動を除く) (関連部署:市環境政策課他)	0件/年	2019 (R元)	1件/年	△	2件/年	2030 (R12)
2-5	希少野生生物の生息地での工事に伴う保護対策を実施した割合 (関連部署:市環境政策課他)	100% (8件/8件)	2019 (R元)	100% (10件/10件)	○	100%	2030 (R12)
2-6	希少野生生物の生息地での保全実施件数 (関連部署:市環境政策課)	5件/年	2019 (R元)	6件/年	○	現状維持	2030 (R12)
2-7	農作物のヌートリアを含む鳥獣被害面積及び被害額 (関連部署:市農林水産課)	被害面積 1.57ha 被害金額 12,034千円	2019 (R元)	被害面積 9.22ha 被害金額 20,126千円	×	被害面積 8.94ha 被害金額 19,522千円	2025 (R7)
2-8	特定外来生物(ヒアリ、アカカミアリ、アルゼンチンアリ)の定着件数 (関連部署:市環境政策課)	0件	2019 (R元)	0件	○	現状維持	2030 (R12)

※状況については、「○」:目標値を達成、「△」:進展なし又は進展はあったが目標値は未達成、「×」:基準値から後退を示している。



数値目標達成状況②

基本目標3 生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。

番号	項 目	基準値	基準年度	R4年度実績値	状況	目標値	達成年度
3-1	「環境保全型農業直接支払制度」取組団体 (関連部署:市農林水産課)	5団体	2019 (R元)	5団体	△	10団体	2030 (R12)
3-2	市民農園区画数 (関連部署:市農林水産課)	663区画	2019 (R元)	640区画	×	現状維持	2030 (R12)
3-3	新規就農者数 (関連部署:市農林水産課)	15人	2019 (R元)	33人	△	120人増 (R3-R12の累積)	2030 (R12)
3-4	有機JAS認定農業者数(団体) (関連部署:市農林水産課)	8団体	2019 (R元)	8団体	△	10団体	2030 (R12)
3-5	おかやま有機無農薬農産物生産農業者数(団体) (関連部署:市農林水産課)	6団体	2019 (R元)	6団体	△	10団体	2030 (R12)
3-6	地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている企業の割合 (引用元:市環境政策課 アンケート(隔年))	24.2% (32/132社)	2019 (R元)	※75.2% (R3)	-	※60% → 80%	2030 (R12)

基本目標4 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

4-1	環境フェスティバル来場者数 (関連部署:市環境政策課、環境学習センター)	5,000人	2019 (R元)	1,200人	新型コロナのため縮小	現状維持	2030 (R12)
4-2	自然の中で遊ぶことが楽しいと思っている子ども(小4-中2)の割合 (引用元:第七次総合計画指標)	84.4%	2019 (R元)	85.5%	△	88%	2030 (R12)
4-3	小学生を対象とした出前講座受講者数(環境分野) (関連部署:市生涯学習課)	913人	2019 (R元)	1,990人	○	現状維持	2030 (R12)
4-4	自然にふれたり、学んだりする活動に参加している子どもの数(屋内講座やイベント含む) (引用元:第七次総合計画指標)	11,533人	2019 (R元)	13,860人	△	18,000人	2030 (R12)
4-5	生物多様性エコツアーの実施 (関連部署:市環境政策課)	1件/年	2019 (R元)	1件/年	○	1件/年	2030 (R12)
4-6	身近なところで、生き物(動物、昆虫や植物など)にふれあえる場や機会(イベントを含む)があると思う人の割合 (引用元:第七次総合計画指標)	32.8%	2020 (R2)	26.0%	×	43%	2030 (R12)

※状況については、「○」:目標値を達成、「△」:進展なし又は進展はあったが目標値は未達成、「×」:基準値から後退を示している。



基本目標1: 倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

➤ 1-① 生物多様性調査の実施

■ 市民参加型生き物調査事業

【計画・事業の概要】 生物多様性の啓発事業として、市民参画による生き物調査を実施する。

たかはしがわりゆういきい ものちようき 高梁川流域生き物調査2022

スマートフォンやタブレットを使って誰でも参加できます！

令和4年度の調査対象は外来生物であるジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)です



- ・対象：ジャンボタニシ（俗称）
和名：スクミリンゴガイ
- ・分類：リンゴガイ科、淡水性の大型巻貝
（※タニシ類ではありません）
- ・生息場所：河川や用水路、水田など
- ・来歴：南米原産。日本へは食用を目的に台湾から持ち込まれ飼育されていた。
野外へ逃げ出したり飼育放棄されたりしてその後野生化。
- ・食性：雑食性（主に植物（稲など）を食べるが、魚の死体なども食べる）

●参加対象：小学生以上～大人（小学生は大人と一緒に調査してね！）

●調査期間：2022年6月1日（水）～9月30日（金）

●調査対象：ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）※卵も含む

●対象地域：高梁川流域7市3町（浅口市、井原市、笠岡市、倉敷市、総社市、高梁市、新見市、里庄町、早島町、矢掛町）

＜令和3年度からの新規事業＞

・高梁川流域生き物調査を実施する

令和4年度の調査対象は「ジャンボタニシ」で81件の報告を受けた。

令和5年度の調査対象は
「カメ」

生き物調査を実施すると共に、自然環境に関する市民への啓発を進める。

基本目標1:倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

➤ 1-② 生物多様性に係る情報の整備・充実

■ 特別展（特別陳列）の開催

【計画・事業の概要】岡山県内を中心として自然史全般について常設展示で盛り込めていないテーマについて、収蔵資料や外部団体の協力を生かした展示を行う。



＜令和4年度実施状況＞

- ・特別展「動物妖怪展at自然史博物館」、特別企画展「倉敷にクジラがやってきた!」のほか、特別陳列として「畠田和一貝類コレクション展」「新着資料展(昆虫)」「しぜんしくらしき賞作品展」「折り紙昆虫展」などを開催した。

＜令和5年度事業＞

- ・特別展「倉敷市立自然史博物館秘蔵お宝展」のほか、特別陳列として「新着資料展」「しぜんしくらしき賞作品展」「みんなの動物ラボ」「畠田和一貝類コレクション展」を開催する。

特別展「動物妖怪展at自然史博物館」



基本目標2:身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

➤ 2-② 地域の自然と生態系ネットワークの保全

■ 〔河川・水辺〕自然環境に配慮した用水路・ため池・河川などの改修及び管理の実施

【計画・事業の概要】

自然環境に配慮した用水路・ため池・河川などの改修及び管理を行う。



スイゲンゼニタナゴ



カワバタモロコ



保護移動の状況

＜保全実施状況＞

- ・公共工事担当課へスイゲンゼニタナゴ、カワバタモロコなど希少野生生物に関する情報提供
- ・希少野生生物の生息地の保全のため、河川、用水路改修時に専門家のアドバイスを得て関係課と協議を行いながら保全対策(保護移動など)を実施した。



ナゴヤダルマガエル



基本目標2:身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

➤ 2-③ 地域ごとの自然環境の保全

■ 〔森・山〕倉敷・水島地域の取り組み

【計画・事業の概要】

大平山、種松山などの山系の自然環境を保全し、自然とふれあえる場として活用を図る。



種松山野草園

＜種松山野草移植保護地＞

・昭和55年11月からの瀬戸中央自動車道建設工事に伴う野草移植保護地。

現在は、倉敷市シルバー人材センターへ委託管理しています。



野鳥観察会(向山)

＜探鳥コース＞

・市内には野鳥の観察にふさわしい地区に探鳥コース(12カ所)を設定しています。

基本目標2:身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

➤ 2-④ 重要地区の保全

■ 〔湿地〕湿地復元、保護活動への支援

【計画・事業の概要】 リーディングプロジェクト

湿地復元や保護を行う自然保護団体の活動への市民参加、協働についての広報の実施、技術情報提供などにより支援する。



サギソウ

＜倉敷美しい森(倉敷市曾原)＞

・平成6年8月の山火事後、平成13年4月にオープンした森林公園で、園内では、サギソウなど貴重な湿生植物の観察やバードウォッチングなどが楽しめます。



湿地復元作業・研修会

・倉敷市自然保護監視員への研修を実施したり、重井薬用植物園が行う湿地復元作業にも参加させてもらい、湿生植物等について学びました。



基本目標2:身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

➤ 2-⑤ 希少野生生物の生息・生育環境の保全

■ 〔河川・水辺〕 ミズアオイ群生地保全活動

【計画・事業の概要】

自然保護団体、地域住民等と協力し、ミズアオイ群生地の良好な生育環境の保全に努める。



ミズアオイ

＜ミズアオイ群生地（倉敷市粒江）＞

・倉敷市立自然史博物館友の会や地域住民等と協力して、ヌートリア食害防護フェンスの設置やスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)など外来生物の駆除。

また、除草作業もしながらミズアオイ自生地の整備・管理・保全に努めている。

・地元小学校の児童に対して観察会等の啓発活動を行っている。

秋:観察会 52名参加(R4.9.11)

春:種まき会 30名参加(R5.3.25)



基本目標2:身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

➤ 2-⑥ 外来生物対策

■ 外来生物に対する啓発と情報提供

【計画・事業の概要】

外来生物の移入などによる生態系への影響を最小限とするため、環境省など関係機関と連携し、外来生物に関する情報提供や正しい知識の普及啓発を行う

(動物)セアカゴケグモなど



＜対応状況＞

- ・自然保護監視員への啓発
- ・庁内関係課への情報提供と注意喚起
- ・広報紙やチラシの配布による啓発
- ・HPの充実

ヒアリ等外来アリ



＜対応状況＞

- ・令和4年度はアカカミアリの確認が1件
- ・市民の問い合わせに対応して確認
- ・国、県は、水島港で定期調査を継続して実施



オオクチバス(左)
オオキンケイギク(中)
ミシシippアカミミガメ(右)

基本目標3: 生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。

➤ 3-① 環境配慮型農業と地産地消の推進

■ 生物多様性に配慮した農業の推進・環境保全型農業の支援

【計画・事業の概要】

- ・生物多様性(環境)保全型農業のPR、農業者や消費者の理解の促進を図る(リーディングプロジェクト)
- ・おかやま有機JASなどの有機農業や冬期湛水(たんすい)管理など生き物を育む環境保全効果の高い営農活動を支援する



カバークロップ(緑肥)

＜実施事業＞

- ・環境保全型農業直接支援対策などにより
環境保全効果の高い営農活動を支援する
カバークロップ(緑肥)等作付け、有機農業など

基本目標3: 生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。

➤ 3-② 生物多様性に配慮した地域開発と産業、事業活動の促進

■ くらしき地域資源の活用

【計画・事業の概要】 リーディングプロジェクト

地域資源を、老舗、特産品、魅どころとして取りまとめ、情報発信をする



くらしき地域資源BOOK&HP

＜実施事業＞

- ・倉敷市内にある多種多様な地域資源を「老舗」、「特産品」、「魅どころ」として取りまとめ、紹介しています。
- ・倉敷の魅力を全国に発信するため、ホームページやBOOK等で情報提供を行っています。



倉敷の老舗 感謝状贈呈式

基本目標4: 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

➤ 4-③ 子どもたちへの環境学習の充実

■ 自然とふれあうイベント等の開催

【計画・事業の概要】 リーディングプロジェクト

子どもたちや親子で参加する自然体験イベントや、自然とふれあう活動を支援する



子育て支援・観光モデルコース



エコサマースクール



かるがもキャンプ

＜実施事業＞

- ・子育てポータルサイト等を通じ、子どもたちや親子で参加する自然体験活動を支援する。
- ・自然体験型の講座を35件実施
421人が参加した
- ・自然の家にて子どもたちと親が参加できるうどん作り体験・キャンプ等を実施した

基本目標4:倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

- 4-④ 社会貢献活動や自然共生圏を意識した地域交流経済活動の支援
 - 自然共生圏を意識した地域交流、経済活動の支援

【計画・事業の概要】 リーディングプロジェクト

高梁川流域など本市が関わる自然共生圏を対象とした地域交流イベント、経済活動を支援

＜実施事業＞

- ・「高梁川でつながる森・里・川・海の力」を井原市で実施し、高梁川流域を含めた人達延べ46名が参加。

午前:セミナー24名

午後:エコツアー22名



井原市 エコツアー

基本目標4:倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

- 4ー④ 社会貢献活動や自然共生圏を意識した地域交流経済活動の支援
 - 自然保護団体への活動を支援

【計画・事業の概要】

各種自然保護団体への活動を支援する

＜実施事業＞

「倉敷の自然をまもる会」の活動支援。

- ・春には高梁川河口の干潟で生物調査を兼ねた観察会を実施した。(令和4年度で7年目)



干潟の観察会(高梁川河口)

基本目標4: 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

➤ 4-⑤ エコツーリズム等の推進

■ 生物多様性エコツアーの推進

【計画・事業の概要】 リーディングプロジェクト

本市の進める生態系ネットワークの取り組みをはじめ、経済的に循環している市内外の優良な企業の取り組みの現場等を巡るツアーの実施及び市民団体等による実施を支援



高梁川流域連携中枢都市圏事業

＜令和4年度事業＞

・令和4年11月19日(土)10時～16時45分
～つなげよう、支えよう 森里川海～

「高梁川でつながる 森・里・川・海の力」

開催場所: 井原市地場産業振興センター

エコツアーの開催に関心のある個人・団体に対し、実践的な講習会を実施した。